

平成 25 年度 札幌市行政評価

市民参加の取組（ワークショップ）  
報告書

平成 25 年 9 月実施

札幌市 市長政策室



## 目次

I. 市民参加の取組の概要.....	45
1. 市民参加の取組の概要.....	45
2. ワークショップにおける議論のテーマ .....	46
(1) 行政評価委員会における評価対象の選定 .....	46
(2) ワークショップのテーマの設定.....	46
3. 参加者について .....	48
(1) 参加者の選定方法 .....	48
(2) 参加者の属性.....	49
4. ワークショップ開催までの流れ .....	50
5. 対象テーマ事前勉強会の概要.....	51
II. 市民参加ワークショップの結果 .....	52
1. プログラム.....	52
2. ワークショップの進め方 .....	53
III. 各テーマの議論のまとめ.....	56
1. 人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について .....	56
(1) 主な論点.....	56
(2) 提案のまとめ.....	56
2. ごみの一生とリサイクルの推進について .....	59
(1) 主な論点.....	59
(2) 提案のまとめ.....	59
IV. ワークショップのグループ議論の記録 .....	62
1. 人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について .....	62
2. ごみの一生とリサイクルの推進について .....	74
V. 参加者名簿.....	86
VI. 参加者アンケートのまとめ .....	87
VII. 対象テーマ事前勉強会の記録.....	91
1. 対象テーマ事前勉強会での説明内容 .....	91

2. 対象テーマ事前勉強会での質疑の概要 .....	93
VIII. ワークショップ当日と対象テーマ別勉強会で使用した資料 .....	99
1. 人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について .....	99
2. ごみの一生とリサイクルの推進について .....	110

# I. 市民参加の取組の概要

## 1. 市民参加の取組の概要

### ◆実施の目的

札幌市では、行政評価における外部評価の取組として、「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」を実施しています。

外部評価は、市役所内部の評価による客観性や透明性を確保するための取組で、この「市民参加の取組」は、市民の皆さまに札幌市の取組への理解を深めていただくとともに、行政評価へ直接参加する市民自治の実践の場とすることを目的としています。

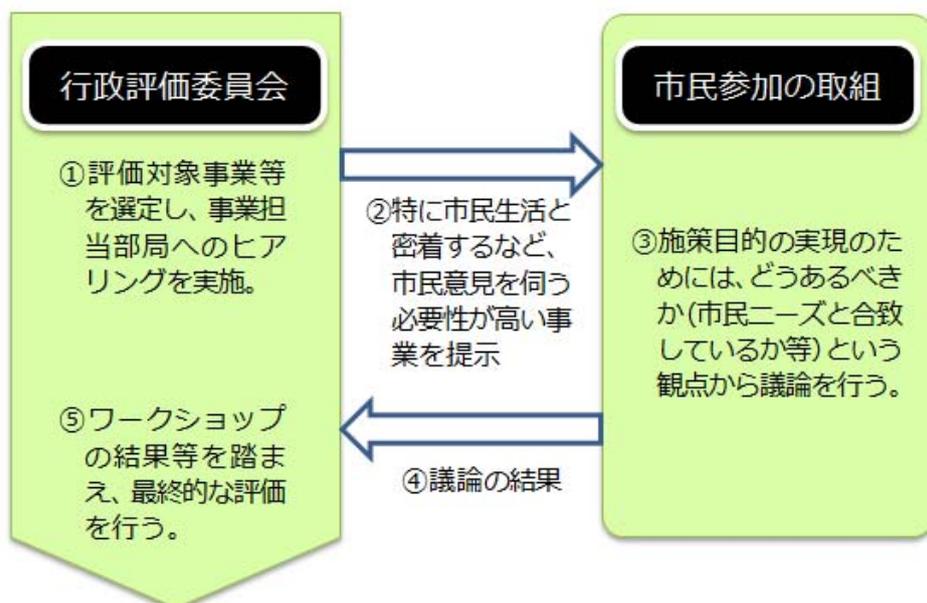
### ◆取組の進め方

今年度の「市民参加の取組」は、行政評価委員会における評価対象事項のうち、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについて、施策目的の実現のために、市の取組はどうあるべきかという観点から市民の方に意見交換（ワークショップ）を行っていただき、市民の方のご意見・ご提言を伺うこととしました。

### ◆成果の活用

ワークショップにおける議論の結果は、行政評価委員会に報告されます。

行政評価委員会では、その専門的な知見からワークショップにおける議論の結果についての検討を深め、委員会として最終的な評価を行い、報告書にまとめる形で結果を活用します。



※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解しあいながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」のこと。

## 2. ワークショップにおける議論のテーマ

### (1) 行政評価委員会における評価対象の選定

行政評価委員会における評価の対象となった施策のうち、「市民参加の取組」の対象は、「道都札幌を支える交通体系の構築」と「みんなで進めるごみ排出量の抑制とリサイクルの推進」の二つを選定しました。その選定理由は次のとおりです。

#### ◆道都札幌を支える交通体系の構築

これまで札幌市は、右肩上がりの人口増加とそれに伴う市街地の拡大において、計画的なまちづくりを進めてきており、市民の日常生活の足となる公共交通においても、交通網の拡大と充実を図ってきました。

しかしながら、今後は、札幌市においても、人口減少社会の到来と少子高齢化の進展により、公共交通の利用者数の減少も見込まれ、公共交通の維持が困難になった場合、このままでは、市民の日常生活に影響が出ることが考えられます。

また、札幌市が目指している環境負荷の低減に寄与する都市交通の面から見ても、これからは、公共交通を基軸とした交通体系を確立しつつ、適切な自動車交通とのバランスに配慮することが必要となります。

以上の点から、将来的な札幌市の社会状況の変化を見据えて、これからの公共交通のあり方に関連する施策・事業を行政評価委員会としての評価対象に選定しました。

#### ◆みんなで進めるごみ排出量の抑制とリサイクルの推進

ごみの収集・処理は、基礎的な自治体の行政サービスであり、市民の誰もが日常生活の中で密接に関係しています。

これまでを振り返ると、生活が豊かになり、大量生産・大量消費社会の中で、ごみ排出量が増大し、埋め立て地の不足やごみ処理コスト・エネルギー消費の拡大など、様々な問題を生じてきました。

そのような中、全国的にも、ごみ処理費用の有料化が導入されはじめ、ごみの減量に一定の成果を挙げてきています。

今後とも、ごみの減量を継続し、処理費用の低減と分別など市民の協力が得られるような、ごみの収集・分別・処理・リサイクルの将来的な方向性について、市民意見を踏まえて、議論することが大切と考え、ごみの処理の流れとリサイクルの推進に関連する施策・事業を行政評価委員会としての評価対象に選定しました。

### (2) ワークショップのテーマの設定

「市民参加の取組」の対象とした事業について、ワークショップのテーマを次のように設定しました。

#### ◆道都札幌を支える交通体系の構築 関係

テーマ：「人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について」

##### 設定理由

「公共交通」に関連する事業についての評価過程で、札幌市においても、少子高齢化が進展し、公共交通、とりわけバスや市電の利用者数が減少傾向にあることがわかりました。

これらの公共交通は、市民みんなの足であり、このまま利用者数の減少が続くと、交通網の縮小等が生じる可能性があり、市民の日常生活に影響を与えることが懸念されます。

今後も、市民が安心・安全に暮らしていくため、また、札幌のまちが都市機能を維持していくためには、公共交通の確保は必要であることから、行政や交通事業者による利便性の向上に向けた取組はもとより、利用主体である市民の皆さんの協力が不可欠になります。

これからの持続可能な公共交通について、その課題や目指すべき方向性を市民の皆さんと共有し、一緒に取組を進めていくことを目指して、今回のワークショップにおける議論のテーマを『人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について』（以下、「公共交通」と略す場合あり）としました。

#### ◆みんなで進めるごみ排出量の抑制とリサイクルの推進 関係

テーマ：「ごみの一生とリサイクルの推進について」

##### 設定理由

札幌市では、ごみの減量、リサイクルの推進のため、平成 21 年 7 月から家庭ごみの処理費用の有料化と分別区分の変更を実施し、市民の協力により、焼却ごみの量を大きく減量し、清掃工場を 1 か所廃止にするなど、一定の成果を挙げてきています。

しかしながら、ごみの減量効果も、市民の皆さんの自らの意思による継続的な協力がなければ、薄まっていくことが懸念されるとともに、家庭から出る一人一日当たりの廃棄ごみ量の削減とリサイクル率のより一層の向上が課題となっています。

このような課題を克服し、今後とも、環境負荷を低減し、環境にやさしい札幌のまちづくりを進めていくためには、札幌市の取組とともに、市民一人一人の日々の工夫・行動などの協力が不可欠になります。

そこで、これからのごみ処理等とリサイクルの推進について、ごみの収集・処理の流れを踏まえた上で、その課題や目指すべき方向性を市民の皆さんと共有し、今後、札幌市と市民の皆さんと一緒に取組を進めていくことを目指して、今回のワークショップにおける議論のテーマを『ごみの一生とリサイクルの推進について』（以下、「ごみ・リサイクル」と略す場合あり）としました。